

# 平成31年（令和元年）度事業報告

## I 総括

平成31年（令和元年）度は、地域福祉の推進にあたり、市民の皆さんや地域の関係機関、団体と連携・協力を図ったほか、本会の財政の健全化を推進するため、プロジェクトチームを設置して持続可能な組織を目指し、計画策定などに取り組みました。

しかし、昨年暮れに発生した新型コロナウイルス感染症は、年が明け全世界に広がりを見せる中、日本国内でも感染が広がり、外出自粛など福祉活動においても、新たな対応が迫られる状況となっています。

### （1）見守り活動の推進及び地域の絆づくりの強化

地域福祉活動のひとつであるサロン活動の推進を支援したほか、各地域の懇談会に出かけて現状や課題を共有するなど地域との絆づくりに取り組み、また本会の災害時支援の周知や高齢者疑似体験など21回の出前講座と福祉教育を実施しました。

### （2）災害ボランティアセンターの運用訓練及び災害ボランティア事前登録者の増強

市の防災訓練の中で、会場となった弥栄小学校において鳥取学区の実施した避難所開設運用訓練と連動して、ボランティアの派遣訓練等を実施するなど登録者の資質向上を図ったほか、本会の広報誌による活動紹介などでボランティア登録グループ数を増やすことができました。

### （3）地域活動担い手の育成及びボランティアセンターの機能強化

福祉委員のスキルアップ研修を8回実施したところ、その研修内容がサロン活動などで即実践されたほか、ボランティアセンターの活動推進のため福祉施設等を対象としたニーズ調査を実施しました。

### （4）社協財政健全化検討委員会の設置による財政の健全化

平成31年4月、「京丹後市社会福祉協議会が実施している事業の再評価」「地域福祉の将来構想と本所・支所体制、職員組織の在り方」「自主財源の確保と財政健全化計画について」という会長からの諮問に基づき、法人運営部会内に小委員会を設置して協議し、本年2月に「役員報酬の見直し」「実費弁償の見直し」「サロン活動の見直し」等について検討結果の報告をしました。

### （5）各介護保険事業の方向性の検討

介護老人保健施設ふくじゅ及び網野デイサービスセンター事業の今後の方向性について、市健康長寿福祉部と協議を行い、介護保険等事業部会においても検討を実施しました。

## II 地域福祉推進事業

### 1 地域福祉活動計画の推進

第3次地域福祉活動計画に基づいた事業計画のもとに地域福祉活動を実施し、進捗状況と課題の把握を行った。

#### 【主な内容】

##### ① 計画内容の周知

- ・民生児童委員の一斉改選後、民生児童委員に計画書（概要版）を配布した。

##### ② 進捗状況の把握と内容の評価

- ・地域福祉活動に基づく本会の取り組みについて、経営健全化検討委員会及び関係部会（延べ4回）において進捗状況の報告と内容評価ができた。

#### 【成果】

- ・地域福祉活動計画の基本目標の番号を事業企画表及び事業評価表に記したことで、適正な評価をすることにつながった。

#### 【課題】

- ・地域福祉活動計画が形骸化しているため、地域福祉活動を行う団体の指針とする必要がある。
- ・第4次地域福祉活動計画の策定は、計画が市民のものとなるよう、策定過程において市民あるいは当事者の参加と関係機関や団体との連携が図れるよう、市とともに検討する必要がある。

### 2 福祉活動啓発事業

小地域福祉活動やボランティア活動、学校の福祉教育、社協事業などの情報を広報こころ・ホームページ・FMたんご・有線放送等を活用し正確にわかりやすく伝えるよう努めた。

#### 【主な内容】

##### ① 広報こころの発行

- ・年4回（各回21,000部） 全戸・ふるさと会員・金融機関等に配布した。

##### ② ホームページでの暮らしや活動に役立つ情報発信

- ・最新情報（見守り新鮮情報・講座の募集・災害ボランティア等）を随時更新した。
- ・年間アクセス数：延べ3,331件

##### ③ マスコットキャラクターを活用しての福祉啓発活動

- ・マスコットキャラクター「あいたん」（着ぐるみ）のイベント派遣：7回

##### ④ FMたんごでの福祉活動紹介

- ・事業等の紹介：3回

##### ⑤ ケーブルテレビや有線放送など、既存のメディアを活用した情報発信

- ・研修会の案内：2回

#### 【成果】

- ・参加者募集など期限のある情報はラジオや有線放送を活用することで、限られた広報こころの紙面の中心を、福祉活動への理解と活動を広げる内容とすることができた。
- ・本会マスコットキャラクター「あいたん」を市内の地域イベント等に派遣して、多世代の市民に対し直接本会を紹介することができた。

## 【課題】

- ・現在活用している広報の媒体では、若年層に情報が届かないため、モバイルやソーシャルメディア等、若年層に身近なツールを活用して情報発信する必要がある。

## 3 住民主体の福祉活動推進事業

### (1) 地域福祉活動支援事業

地域で見守り、支えあえるしくみづくりのために、地域福祉の推進役である福祉委員を委嘱し、地域の関係者とともに組織的に取り組む地域福祉活動の支援を行った。

#### 【主な内容】

#### ① 福祉委員及び地域福祉推進組織の活動支援（地域サロン活動助成事業含む）

※活動計画目標値 見守り活動団体 100 団体

サロン数 140 実施回数 1,500 回 延べ参加人数 27,000 人  
（当事者サロン・ボランティアサロンを含む数）

- ・福祉委員委嘱：607 人
- ・地域福祉委員会（地域福祉委員会は地区代表の福祉委員による組織）：7 回
- ・地域サロン活動支援

地域サロン活動助成事業…資料1：101 サロン

推移	H29 年度	H30 年度	R1 年度
サロン活動助成団体数	109 団体	105 団体	101 団体
実施回数	1,123 回	1,141 回	1,105 回
延べ参加人数	18,183 人	17,915 人	16,290 人

地域サロン外出支援事業：38 サロン

地域サロン保険加入：54 サロン（加入希望のサロンのみ加入）

助成制度見直しに関する聞き取り調査の実施

- ・地域ひとつなぎ事業（年 10 回以上の見守り活動に対する府社協補助事業）：10 団体

#### ② 福祉委員研修会の開催

- ・福祉委員研修会（支所単位）：8 回（参加:219 人）
- ・「ふくし活動を楽しむ研修交流会」（全体）：1 回（参加:31 人）

#### 【成果】

- ・福祉委員研修会での研修内容が、サロン等の地域福祉活動の場で即実践された。
- ・福祉委員研修会として 3 支所が視察を行い、他地区での先進的な取り組み事例について研修した。
- ・地域福祉委員会で福祉委員研修の企画を行ったことにより、多くの参加につながった。



峰山町福祉委員研修会

「最近のワンポイントアドバイス講座」

#### 【課題】

- ・地域福祉を推進する中で、福祉委員を任命していても活動に結び付かない地区があり、委員の在り方や地域福祉の推進方法について、生活支援体制整備事業とともに再検討する必要がある。

## (2) ボランティアセンター事業

ボランティアの活動調整、活動助成等による支援、また、市ボランティア連絡会及び各支部の事務局として活動支援を行ったほか、福祉施設を対象としたボランティアニーズ調査を行った。

### 【主な内容】

#### ① ボランティア活動の啓発、相談受付と活動調整

- ・ボランティアセンター登録者数：2,325人（内訳 87グループ 1,676人・個人 34人・福祉委員 615人）

推 移	H29年度	H30年度	R1年度
登録者数	2,479人	2,533人	2,325人
登録グループ数	82団体	83団体	87団体

- ・ボランティアに関する相談件数：95件（内訳、派遣関係 63件 活動関係 32件）

推 移	H29年度	H30年度	R1年度
相談件数	123件	69件	95件

- ・センターの周知と活動啓発のため、チラシと広報こころによる活動紹介を実施した。
- ・福祉施設等を対象としたボランティアニーズ調査を実施した。

#### ② ボランティア活動支援

- ・ボランティア基金運用による助成：39団体
- ・京都ボランティアバンク補助金による助成：9団体

推 移	H29年度	H30年度	R1年度
ボランティア基金助成団体数	46団体	48団体	39団体
京都ボランティアバンク助成団体数	7団体	9団体	9団体

- ・ボランティア保険助成：一般 1,115人 福祉委員 609人 災害 0人 雪すかし 2人
- ・市ボランティア連絡会の活動助成

#### ③ 災害備品等の整備

- ・レスキューキャリア、避難所間仕切りテント、LED強カライト等、備品整備を行った。

### 【成果】

- ・広報こころによる活動紹介と募集チラシの配布により、ボランティアセンターの登録グループ数が増加した。

### 【課題】

- ・傾聴・託児ボランティアのニーズが高まる傾向にある一方、対応できる人材の登録がない。人材育成と登録を進めてニーズに沿った活動調整を可能にする必要がある。
- ・迅速な活動派遣調整のため、グループ登録している方の中で、個人で活動可能な内容があれば個人登録をすすめる必要がある。

## (3) 共に生きる地域づくり事業

地域でおきていることを自分のこととして考えられるよう、懇談会やご近助マップづくりに取り組んだ。

### 【主な内容】

#### ① 懇談会の実施

- ・「大宮町河辺地区社協福祉関係者との懇談会」 6/18（参加:11人）
- ・「大宮町口大野区福祉懇談会」 8/20（参加:約 30人）
- ・「丹後町まちづくり懇談会」 11/21（参加:16人）

## ② 出前講座（職員派遣含む）の実施

※活動計画目標値 地域福祉学習 70カ所 ご近助マップづくり 6地区

- ・出前講座（福祉教育・防災学習・ご近助マップ更新含む）：12回
- ・お試し健やか生きがい教室：3回
- ・地域での懇談会への職員派遣：3回



丹後放課後児童クラブでの「地域福祉学習会」

### 【成果】

- ・懇談会は、それぞれの地域で関心が高い内容をテーマとし、身近な地域の福祉活動や困りごと、地区の現状や課題の共有や今後の活動の方向性など話し合えた。
- ・出前講座では、幅広い年代を対象に身近な地域での助け合いの必要性と、本会の災害時支援について周知できた。
- ・地域サロンで防災講習会やご近助マップの作成をすることで、地域住民が防災について考えるきっかけ作りが出来た。

### 【課題】

- ・限界集落といわれる地区においては、福祉委員を任命していても活動に結び付いていないため、委員の在り方や地域福祉の推進方法について、生活支援体制整備事業とともに再検討する必要がある。

## 4 生活支援・在宅福祉活動

### (1) 福祉有償運送事業…資料2

公共交通機関の利用が困難な方を対象に、医療機関への通院や入退院並びに公共機関での福祉サービス手続き等の外出を福祉車両等により支援した。

#### 【主な内容】

- ・運転協力者数：25人
- ・実利用者数：125人（前年度対比16人減）
- ・利用回数：7,003回（前年度対比449回増）

推移	H29年度	H30年度	R1年度
実利用者数	149人	141人	125人
利用回数	7,328回	6,554回	7,003回

- ・登録者数：180人（前年度より19人増）
- ・運転協力者研修会：1回

#### 【成果】

- ・新規登録者が19名増え、利用回数の増加につながった。

#### 【課題】

- ・本事業で使用する福祉車両11台の内、走行距離が15万kmを越える車両が5台、使用年数15年を越える車両が3台あり、民間助成の活用を含めて計画的な車両更新をする必要がある。
- ・事業継続のため、効率化による経費削減と利用料金の見直し（上限の見直し）の検討が必要である。

## (2) 福祉サービス利用援助事業

認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者等判断能力が十分でない方が、地域において自立した生活が送れるよう福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等を支援した。

### 【主な内容】

- ① 実施体制：専門員 2 人 生活支援員 25 人（内、嘱託職員 1 人）
- ② 問合せ件数：45 件
- ③ 初回相談件数：46 件
- ④ 相談・連絡調整活動の実施状況：8,973 件
- ⑤ 実利用者：100 人（新規 20 人、解約・終了 12 人、3 月末 88 人）

推 移	H29 年度	H30 年度	R1 年度
問合せ件数	14 件	34 件	45 件
初回相談件数	8 件	27 件	46 件
相談・連絡調整活動の実施状況	7,215 件	10,000 件	8,973 件
実利用者	96 人	92 人	100 人

### 【成果】

- ・在宅生活維持のために関係機関等と連携し、課題解決のための支援につなげられた。
- ・初回相談から契約までの対応を迅速に行い、待機者を出すことなく支援を行うことができた。

### 【課題】

- ・頻回な電話対応または急な訪問支援、複雑な課題に対する長時間対応などで、業務時間内で対応できないことが常態化しており、支援体制や支援方法の見直しが必要である。

## (3) 生活福祉資金事業

所得が少ない世帯、障害者、療養や介護を必要とする高齢者がおられる世帯等を対象に、資金の貸し付けと必要な相談支援を行い、安定した生活が送れるように支援した。

### 【主な内容】

- ・ホームページ、市くらしの支援ガイドに掲載して周知を図った。
- ・貸付実績：緊急小口貸付 2 件、教育支援資金 1 件

推 移	H29 年度	H30 年度	R1 年度
貸付件数	8 件	4 件	3 件

- ・3月25日からは、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた特例貸付の弾力運用を適用した。

### 【成果】

- ・支援を必要とされている世帯へ、迅速な支援をすることができた。

### 【課題】

- ・滞納世帯に対する民生委員の支援のあり方について、京都府社協や民生児童委員協議会と情報交換しながら検討する必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症にかかる特例の資金が設定されたため、新年度において、改めて相談体制を整備する必要がある。

## (4) 雪下ろし・雪すかし事業…資料 3

大雪の被害により日常生活に支障をきたす高齢者世帯や障害者世帯等が、住みなれた地域で

安心して生活できるよう、地区の協力を得て支援した。

**【主な内容】**

- ・雪下ろし：0軒 雪すかし：5件

推 移	H29年度	H30年度	R1年度
雪下ろし	20軒	0軒	0軒
雪すかし	997件	4件	5件

**【成果】**

- ・大雪の被害に備え、各区で協力者を募り、住民による支えあう体制が出来た。

**【課題】**

- ・協力者が区を越えて支えあえる仕組みづくりの検討が必要である。

**(5) 地域住民支えあい活動支援事業**

本会の車両をモデル地域に貸し出し、地域住民による高齢者の通院支援等の支えあい活動を支援した。

**【主な内容】**

モデル地区：弥栄町野間地区（延べ利用者数 316人 延べ運転活動者数 31人）

**【成果】**

- ・住民の支えあいにより、高齢者の社会参加につながった。
- ・モデル地区として視察を受入れ、実践報告を行った。

**【課題】**

- ・車両が1台しかなく、今後他地域への拡大、もしくは事業の継続について検討する必要がある。

**(6) 買物支援見守り事業**

本年度より新たに公共交通の空白地区の内、峰山町内記区・西山区、網野 塩江区・磯区・切畑区、弥栄町船木区に居住する高齢者の買い物支援による見守り活動をおこなった。

**【主な内容】**

- ・モデル地区：峰山町内記区・西山区 網野町塩江区・磯区・切畑区 弥栄町船木区
- ・活動日数：65日
- ・延べ利用者数：185人

**【成果】**

- ・新たに弥栄町船木区をモデル地区に指定し買い物支援を行った。

**【課題】**

- ・生活支援体制整備事業と連携し、今後の買い物支援方法について検討する必要がある。

**(7) 京丹後市丹後老人福祉センター管理運営事業（丹後支所 松風苑）…資料4**

高齢者の生きがいづくりや憩いの場である松風苑について、指定管理による適正な管理運営を行った。

**【主な内容】**

延べ利用人数：6,443人（前年度対比 906人増）

（内訳 部屋利用者数 3,496人 鍼灸利用者数 435人 温泉入浴者数 2,512人）

**【成果】**

- ・新規高齢者の体操グループによる定期利用により利用者数が増加した。

**【課題】**

- ・建物の老朽化による大規模修繕について市に要望していく必要がある。

**(8) 障害居宅介護事業（久美浜支所 障害がある方へのホームヘルプサービス）…資料5**

障害のある方が、居宅において自立した日常生活を営むことができるよう自宅を訪問し家事や身体介護により援助した。

**【主な内容】**

- ・実利用者数：13人
- ・延べ利用回数：1,600回（前年度対比145回増）

推 移	H29年度	H30年度	R1年度
実利用者数	13人	14人	13人
延べ利用回数	1,602回	1,455回	1,600回

**【成果】**

- ・日常生活の課題を把握し、必要な支援について利用者と相談事業者に提案することで、サービス等利用計画に反映された結果、前年度より延べ利用回数が145回増えた。

**【課題】**

- ・利用者の障害特性にあった支援を行うための研修プログラムの検討が必要である。

**(9) 在宅重度身体障害者訪問入浴事業（久美浜支所 障害がある方への訪問入浴サービス）…資料6**

入浴サービスの提供により、重度身体障害者の在宅生活を支援するとともに、その家族等の介護負担の軽減を図った。

**【主な内容】**

- ・実利用者数：1人
- ・延べ利用回数：86回（前年度より7回増）

推 移	H29年度	H30年度	R1年度
実利用者数	3人	3人	1人
延べ利用回数	139回	79回	86回

**【成果】**

- ・市や関係機関と協議を重ね、サービス提供体制の変更と他のサービスとの併用により次年度の事業継続が可能となった。

**【課題】**

- ・看護師及び介護職員の確保の問題で、一事業所だけでは事業継続が困難な状況にあるため、重度身体障害者の入浴サービスについて市や関係機関とともに継続的に協議を行う必要がある。

**5 共同募金運動の推進**

地域福祉の推進のため住民の理解と協力を得ながら共同募金委員会や関係機関と連携し、共同募金運動を推進した。

**【主な内容】****① 配分金（助成金）による福祉活動の広報**

- ・広報こころに、募金協力・募金報告・配分金による福祉活動を紹介した。

## ② 配分金（助成金）の活用支援

- ・福祉活動実施団体が配分金を活用して福祉活動ができるよう相談や助言を行った。

### 【成果】

- ・長年の懸案事項であった歳末たすけあい募金配分方法を申請方式に見直し、民生児童委員の負担軽減が図れた。

### 【課題】

- ・共同募金委員会との協働により、歳末たすけあい配分事業の効果と課題、また募金方法と配分について検討する必要がある。

## 6 災害にも強いまちづくり事業

### （1）災害時協力体制の整備

災害時に迅速で効果的な救援活動が行えるよう、協定の見直しと災害ボランティア事前登録者を対象とした研修を行った。

#### 【主な内容】

#### ① 災害に関する協定内容の見直し検討

- ・京丹後市、また青年会議所との協定内容の見直し協議を行った。

#### ② 災害ボランティア事前登録者の更新と募集

- ・事前登録団体：8団体（前年度対比2団体増）
- ・事前登録個人：26人（前年度対比2人減）

#### ③ 災害ボランティア事前登録者を対象とした研修

- ・災害ボランティア研修会：1回（参加:18人）

#### 【成果】

- ・広報こころ75号に募集記事を掲載し、2団体と2名の新規登録につながった。
- ・事前登録者の研修を経て、平時の活動として防災学習会において防災活動の指導を行うことができた。

#### 【課題】

- ・次年度の出水期までに協定の再締結と協力体制の再構築を図る必要がある。

### （2）災害ボランティアセンターの運用訓練

災害時に円滑なセンター運営が図れるよう、京丹後市防災訓練の避難所開設運用訓練と連動した運用訓練を実施した。

#### 【主な内容】

#### ① 災害ボランティアセンター運用訓練

- ・京丹後市防災訓練の弥栄町鳥取小学校区避難所開設運用訓練と連携して実施した。
- ・伊根町災害ボランティアセンターの運用訓練に参加した。

#### 【成果】

- ・地域主体の避難所開設運用訓練と連携して運用訓練を行ったことで、多くの方に災害ボランティアセンターの機能について知ってもらうことができた。

#### 【課題】

- ・京丹後市地域防災計画に基づいた災害ボランティアセンターの運営ができるよう、マニュアルの見直しを早急に行う必要がある。
- ・職員対象の小規模訓練（机上訓練）を経て、段階的に事前登録者や地域住民と連携した

運用訓練を行う必要がある。

## 7 婚活支援センター事業

婚活支援センター「出会いは京丹後」により、市内で独身者の婚活支援事業に取り組む地域組織やボランティア団体、NPO法人等の支援を行った。

### 【主な内容】

- ① 婚活ファシリテーター「世話やき隊」の活動支援
  - ・18人任命（内、新任2人）
  - ・意見交換会：3回（参加:18人）
  - ・新任研修：1回（参加:2人） ステップアップ研修：2回（参加:11人）
- ② 婚活サポート企業の募集・登録、活動の紹介
  - ・登録企業：36事業所（内、新規2事業所）
- ③ ホームページによる情報発信
  - ・イベント周知：12イベント
- ④ 婚活情報提供希望者のメルマガ登録と情報発信
  - ・メルマガ登録：126人（内、新規登録27人）
  - ・「恋愛塾」や「tan-Go!女子会」など3事業のレポート等の掲載
- ⑤ 婚活イベントの周知、婚活支援力アップ研修等による婚活支援団体の活動支援
  - ・イベント周知：13イベント
  - ・ネットワーク会議兼婚活支援力アップ研修：1回
- ⑥ 婚活支援ネットワーク会議の開催
  - ・2回（参加:31人）
- ⑦ 恋愛塾及び恋話会の実施
  - ・「恋愛塾」：2回（参加:17人）
  - ・「恋話会（婚活対象者の家族対象）」：1回（参加:3人）
  - ・「tan-Go!女子会」：2回（参加:14人）

### 【成果】

- ・きょうと婚活応援センターへの新規登録を行い、講師派遣や支援方法のアドバイスなどの協力を得ながら、互いに連携して婚活支援を進めることができた。
- ・「tan-Go!女子会」事業を通じて、新たな地元企業の協力を得ることができた。

### 【課題】

- ・世話やき隊からは「お引き合わせ」を望む声強いが、京丹後市婚活支援センターにはその機能がなく相談の情報交換にとどまっており、きょうと婚活応援センターの「お引き合わせ」活動との連携方法を検討する必要がある。
- ・対象者世代に効果的な情報発信を行うため、SNSの活用が必要である。

## Ⅲ 介護保険事業

### 1 居宅介護事業

- (1) 訪問介護事業、介護予防・生活支援サービス事業（久美浜支所 介護保険制度によるホームヘルプサービス）…資料7

利用者が、可能な限りその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、居宅における生活を支援した。

**【主な内容】**

- ・実利用者数：68人（前年度対比7人減）
- ・訪問回数：10,856回（前年度対比443回増）

推 移	H29年度	H30年度	R1年度
実利用者数	53人	75人	68人
訪問回数	10,948回	10,413回	10,856回

**【成果】**

- ・利用者の現状にあった支援内容について利用者と介護支援専門員に提案し、居宅サービス計画に反映された結果、前年度より訪問回数が443回増加した。

**【課題】**

- ・登録ヘルパーの高齢化と人材不足のため利用者や家族の希望に添うサービスが出来ない場合がある。人材確保のため、処遇改善とキャリアアップの仕組みの構築が必要である。

**（2）訪問入浴介護事業（久美浜支所 介護保険制度による訪問入浴サービス）…資料8**

利用者が、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう、居宅において入浴援助を行い、利用者の清潔保持及び心身機能の維持に努めた。

**【主な内容】**

- ・実利用者数：3人（前年度対比2人減）
- ・訪問回数：100回（前年度対比26回減）

推 移	H29年度	H30年度	R1年度
実利用者数	12人	5人	3人
訪問回数	132回	126回	100回

**【課題】**

- ・看護師及び介護職員の確保が困難であるため、市と協議し現利用者の代替サービスの確認を行った上で次年度より1年間の事業休止を決定した。

## 2 通所介護事業

**（1）通所介護事業、介護予防・生活支援サービス事業（第1号通所事業）（網野デイサービスセンター）…資料9**

利用者が、可能な限りその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、生活指導や機能訓練を提供し、社会的孤立の解消や心身機能の維持並びに利用者の家族の身体的、精神的負担の軽減に努めた。

**【主な内容】**

- ・家族交流会の実施：1回（参加:9人）
- ・地域との交流事業の実施  
あみの夢保育所・網野こども園・島津保育所のこどもと利用者の交流事業を実施した。  
また、季節行事等を通じて網野高等学校のボランティア部、吹奏楽部、茶道部、市内のボランティアグループと交流した。
- ・延べ利用者数：6,451人（前年度対比89人減）

- ・1日平均利用者数：25人（前年度対比0.5人減）

推移	H29年度	H30年度	R1年度
1日平均利用者数	23.7人	25.5人	25人

#### 【成果】

- ・介護業務事故に関する研修を基にした再発防止策の検討と確実な実施により、介護業務事故を減少させた。

#### 【課題】

- ・利用者数が減少傾向にあるため、本事業所の「強み」を可視化して介護支援専門員を通じて対象者に対し、利用をすすめていく必要がある。
- ・本事業所ならではの地域貢献や地域交流に向けた取り組みが必要である。
- ・9月より看護体制が整わず個別機能訓練を提供できない営業日があり、利用者の心身機能の維持のために必要なサービス提供のために、体制を整備する必要がある。
- ・サービスの質の向上のため、内部研修だけでなく外部研修も活用し、職員のスキルアップをする必要がある。

### 3 介護老人保健施設事業（京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅ）…資料10

市内唯一の介護老人保健施設として、目標を職員全体で意識し、今後更に求められるサービスの質・量の多様化及び高度化に対応できるよう研鑽し、組織的、効率的な運営に努めた。

#### 【主な内容】

##### ① 利用者本位の施設づくり

各部署で情報共有をしっかりとしていくことや、認知症専門棟においては、認知症の方の心をつかむケア方法「ユマニチュード」を取り入れた取り組みも行うなど、利用者の安心できる環境を作り、その人らしい暮らしを目指し自立支援に取り組んだ。

##### ② 家族及び地域との交流の充実

本人、家族が参加し、お互いの意思疎通ができるよう会議のやり方を工夫した。

また、積極的に学生の職場体験やボランティアの受け入れも行い、ふくじゅ祭りでは学生ボランティアの参加もあった。広域連携では、認知症の方と地域をつなぐイベント「RUN伴」に職員10人が参加した。

##### ③ 職員の資質向上

外部研修で学んだことを施設内で共有するため、伝達研修を取り入れるなど、自己の能力を最大限に発揮できる環境づくりに取り組んだ。また、居宅支援事業所では、主任介護専門員の研修にも参加した。

職員の外部研修 14回 内部研修 16回

##### ④ 関係機関との連携強化

地域ケア会議、事例検討会などに参加し、行政、各施設との連携を図る中で、入退院時の連携マニュアル検討会での病院との連携ルール作りにも協力した。

関係機関主催の研修会等で取り組みの発表も行うなど、顔の見える関係を保ちながらスムーズな連携に努めた。

##### ⑤ 利用者の状況

- ・老人保健施設事業

利用者のべ 32,130人（前年対比64人減）

- ・短期入所療養介護事業/介護予防短期入所療養介護事業

利用者のべ 2,808 人（前年対比 258 人増）

- ・通所リハビリテーション事業/介護予防通所リハビリテーション事業

利用者のべ 7,958 人（前年対比 26 人減）

- ・居宅介護支援事業 介護給付・予防給付ケアプラン及び介護予防マネジメント

利用者のべ 889 件（前年対比 41 件増）

推 移（延べ利用数）	H29 年度	H30 年度	R1 年度
老人保健施設事業	30,313 人	32,194 人	32,130 人
短期入所療養介護事業 介護予防短期入所療養介護事業	2,916 人	2,550 人	2,808 人

推 移（延べ利用数）	H29 年度	H30 年度	R1 年度
通所リハビリテーション事業 介護予防通所リハビリテーション事業	8,136 人	7,984 人	7,958 人
居宅介護支援事業 介護給付・予防給付 ケアプラン及び介護予防マネジメント	874 件	848 件	889 件

#### 【成果】

- ・各種委員会や研修会を実施し、専門性を活かした事業を展開できた。
- ・在宅復帰率 50%以上を達成した。
- ・学生の職場体験やボランティア、傾聴や演芸等のボランティア活動を積極的に受け入れたことで、より豊かな施設生活につながった。

#### 【課題】

- ・今後の施設運営や利用者ニーズへの対応にあたり、各職員共通認識のもと組織的に行動し、専門職員をはじめとする職員確保に努めるとともに、より効果的な職員体制及び業務の見直し等の取り組みが必要である。

## 4 介護予防・日常生活支援総合事業

### （1）生活支援体制整備事業

地域ニーズに応じた生活支援・介護予防サービスの充実に向けて、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を置き、生活支援の担い手の養成、地域資源の開発、ネットワーク化を図った。

#### 【主な内容】

##### ① 生活支援コーディネーターの設置

- ・第1層（市域）生活支援コーディネーター1人
- ・地域資源やニーズの把握、担い手養成などを通し、地域支え合い活動の推進にあたった。  
また、学生を含めた市民が、京丹後市の今後を考え、身近な人におきていることを自分事とらえるよう研修や講座を通じて働きかけを行った。
- ・市包括支援センターの第1層生活支援コーディネーターと連携した体制整備を行った。

##### ② 資源開発

- ・地域に不足するサービス及び支援の創出  
新規サロン 立ち上げ相談と支援：2件  
男性の居場所づくり

男笑会アンケート調査：18人回答（配布36人）

男笑会：4回（参加:65人）

地域ケア推進会議（第2層協議体） 6回（各町1回）

・サービスの担い手の養成

地域別担い手養成講座（鱒留区）2回（参加:20人）

・高齢者等が担い手として活動する場の確保等

活動別担い手養成講座：5回（参加:54人）

③ ネットワークの構築

※活動計画目標値 高齢者等見守りネットワーク協力  
事業所 230 事業所

・関係者間の情報共有

買い物支援：1回 連携協議：4回 絆ネット連携：1回

活動調査：1回 相談支援：1回 生活支援体制整備事業協議会：1回

生活支援コミュニティプラットフォームワークショップ：2回

・サービス提供主体間の連携の体制づくり等

RUN伴 2019 実行委員会：4回

高齢者等見守りネットワーク

加盟事業所：215 事業所 通報：3件、相談：1件

京丹後流の見守りを考える集い：1回（参加:42人）

④ ニーズと取組のマッチング

・ボランティアセンターと協働して生活課題に対するボランティア活動のマッチングを行った。

【成果】

・地域のつながりづくりや担い手育成について、きょうとSKYセンターや京丹後市老人クラブ連合会、京丹後市シルバー人材センター、太陽福祉会等多くの団体とチームを組んで実施できた。

・積極的に出前講座や養成講座に取り組み、助け合いの関係づくりの意識を高めることが出来た。

【課題】

・幅広い生活課題の解決のため、困りごとを抱えた人と養成された担い手をマッチングできるよう、ボランティアセンターとの連携を強化する必要がある。

・地域に密着した取り組みを行うため、第2層（中学校域程度の生活圏域）の動きをつくる必要がある。

・地域での支え合いの仕組みが暮らしの中に定着するためには、単年度ではなく中長期の計画を策定する必要があり、次期策定の第4次地域福祉活動計画策定に盛り込む必要がある。



コミュニケーション麻雀広げ隊  
養成講座

(2) 介護予防・生活支援サービス事業…資料11

健やか生きがい教室事業において、家に閉じこもりがちな高齢者の生きがいづくりや介護予防のために、各種サービスを提供した。

### 【主な内容】

- ・大宮会場：利用者数延べ 2,280 人（前年度より 96 人増） 実施日数 239 日
- ・丹後会場：利用者数延べ 435 人（前年度より 6 人増） 実施日数 49 日
- ・久美浜会場：利用者数延べ 581 人（前年度より 142 人減） 実施日数 48 日

推 移	H29 年度	H30 年度	R1 年度
1 日平均利用者数	9.5 人	8.8 人	9.8 人

### 【成果】

- ・出前講座としてサロンに職員を派遣し、「お試し健やか生きがい教室」による体験型の活動紹介し、大宮会場では利用者数が延べ 96 人増加した。

### 【課題】

- ・新規利用者の減少と介護保険サービスへの移行により会場によっては利用者数が減少している。今後は、市の協力を得て予防支援が必要な方へのサービスの周知を行い、利用数の増加を図る必要がある。

## IV 社協組織の発展

### 1 役員・職員の資質向上

社協組織や福祉の動向を見据えた学習の機会を設け役職員の資質向上を図るとともに、情報共有を行った。

#### 【主な内容】

- ・役職員研修：「第8回きょうと地域福祉活動実践交流会」を宮津市、伊根町、与謝野町と合同で京都府丹後文化会館を主会場として実施した。（参加者 641 人）
- ・マインドセットセミナー、成年後見利用促進制度勉強会（リーガルサポート協会）等を実施した。

#### 【成果】

- ・内部研修の実施により全ての職員に学習の機会を設けることができた。
- ・施設のサービスや職場環境の整備に取り組み、介護職員等特定処遇改善加算、処遇改善加算Ⅱを取得して職員の処遇改善を行った。

#### 【課題】

- ・職員の資質向上とキャリアアップのために、さらに経験年数や職責に応じた計画的な研修を行う必要がある。

### 2 組織経営体制の強化

#### （1）組織運営体制の強化等

第2次基盤強化計画に基づき、法人・組織体制の強化、財政基盤の強化、やさか老人保健施設ふくじゅの指定管理の受託について各部会及び経営健全化検討委員会を設置し協議した。

#### 【主な内容】

- ・京丹後市社会福祉協議会が実施している事業の再評価、地域福祉の将来構想と本所・支所体制、職員組織の在り方、自主財源の確保と財政健全化計画について協議した。
- ・やさか老人保健施設ふくじゅ及び網野デイサービスの指定管理の受託について協議した。

## 【成果】

- ・指定管理への移行に伴う問題点や、財政状況が逼迫している現状の共通認識を図ることができた。
- ・介護保険等事業部会で、やさか老人保健施設ふくじゅの指定管理及び網野デイサービスの指定管理の受託について協議を重ね、市とも協議した中で一定の方向性を確認した。

## 【課題】

- ・第2次基盤強化計画に基づき、引き続き法人・組織体制の強化、財政基盤の強化等に向けて協議する必要がある。

## (2) 財政基盤の確保

財政の安定的な確保を目指し、自主財源の柱である会員加入の増強について検討するとともに、寄附金の活用事業を広く周知することにより、さらなる寄附金の増額に繋げた。

### 【主な内容】

- ・会員加入の増強のため、会費が地域福祉事業に活かされていることを広報こころ等により周知した。

前年度比：193件減（一般会員198件減・賛助会員3件減・ふるさと会員8件増）

支所	一般会員		賛助会員		ふるさと会員		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
本所	—	—	9	119,000	15	73,000	24	192,000
峰山	2,710	2,728,000	63	303,000			2,773	3,031,000
大宮	2,440	2,516,000	23	98,000			2,463	2,614,000
網野	2,660	2,744,000	103	410,000			2,763	3,154,000
丹後	1,519	1,524,000	52	174,000			1,571	1,698,000
弥栄	1,243	1,312,000	21	117,000			1,264	1,429,000
久美浜	2,474	2,500,000	23	129,000			2,497	2,629,000
合計	13,046	13,324,000	294	1,350,000	15	73,000	13,355	14,747,000

- ・福祉基金を活用し、米寿のお祝いとして465人の方に記念品を贈呈した。
- ・福祉のまちづくりや地域福祉活動に対して83件、2,904,458円の寄附が寄せられた（物品含む）。

## 【成果】

- ・ゆうちょ銀行窓口で振込取扱票により納入できるようにしたことにより、ふるさと会員は、わずかながら増加し、3事業所12個人となった。

## 【課題】

- ・年々会員が減少傾向であり、会員の増加や地域の状況に合わせた依頼方法、また会費の納入方法について検討する必要がある。
- ・賛助会員も減少傾向であり、引き続き新規事業所への加入依頼を行っていく必要がある。
- ・広報紙に寄附内容について掲載したが、寄附金の活用内容と税額控除対象法人であることの周知をするに至らず、周知方法の改善を図る必要がある。

## (3) 会議等開催状況

- ・理事会：6回
- ・評議員会：3回
- ・評議員選任・解任委員会：2回

- 監査会：2回
- 法人運営部会：4回
- 地域福祉ボランティア部会：2回
- 介護保険等事業部会：4回
- 広報委員会：4回
- 支所委員会：16回（峰山3・大宮3・網野3・丹後2・弥栄3・久美浜2）
- ボランティア基金委員会：3回
- 苦情処理委員会：4回

資料1 地域主催サロン

町	実施地区数	サロン数	実施回数	参加延べ人数
峰山	23	23	217	3,630
大宮	11	17	242	3,527
網野	18 (単区数33)	19	226	3,288
丹後	19	19	133	1,950
弥栄	14	14	139	2,570
久美浜	9	9	148	1,325
合計	94	101	1,105	16,290

内、対象者区分別サロン数

町	区民全体	高齢者	子育て
峰山	19	4	0
大宮	4	7	6
網野	10	9	0
丹後	17	2	0
弥栄	10	4	0
久美浜	5	4	0
合計	65	30	6

資料2 福祉有償運送事業

	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	合計
実利用者数	20	19	25	18	13	30	125
利用回数	1,011	1,058	1,645	307	149	2,833	7,003
対象者内訳							
① 高齢	177	217	372	224	149	199	1,338
② 透析	820	736	1,192	39	0	2,464	5,251
③ 障害	14	105	81	44	0	170	414
目的別内訳 (回数)							
① 医療機関	1,011	1,058	1,645	307	144	2,833	6,998
② 公共機関	0	0	0	0	0	0	0
③ 福祉サービス	0	0	0	0	5	0	5

資料3 雪下ろし・雪すかし事業

	地区数	雪下ろし軒数	延べ雪すかし件数	延べ活動人数
峰山	1	0	5	5
合計	1	0	5	5

資料4 京丹後市丹後老人福祉センター管理運営事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
部屋利用者	280	283	383	394	185	305	387	424	323	161	286	85	3,496
鍼灸利用者	32	40	64	70	11	0	68	60	67	0	12	96	435
温泉入浴者	242	245	224	184	147	173	214	197	205	197	218	266	2,512
合計	554	568	671	648	343	478	669	681	595	358	516	362	6,443

資料5 障害居宅介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	9	11	11	12	9	11	9	11	9	10	11	11	124
訪問日数	30	30	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	365
延べ利用回数	93	124	121	131	139	142	106	133	141	148	149	173	1,600

資料6 在宅重度身体障害者訪問入浴事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
訪問日数	6	6	5	9	8	7	8	9	8	7	8	5	86
延べ利用回数	6	6	5	9	8	7	8	9	8	7	8	5	86

資料7 訪問介護事業、介護予防・生活支援サービス事業

介護度別人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者		2	5	4	5	4	4	5	4	4	5	4	46
要支援1	27	29	25	25	19	10	6	8	9	4	3	2	167
要支援2	18	17	21	23	27	46	46	47	52	43	41	42	423
要介護1	154	173	169	200	192	180	191	204	181	138	193	191	2,166
要介護2	344	360	325	352	344	394	385	382	412	431	409	470	4,608
要介護3	257	267	244	257	213	162	148	159	100	112	100	113	2,132
要介護4	41	67	64	71	73	25	73	71	41	50	57	67	700
要介護5	59	58	60	55	59	62	50	47	45	41	34	44	614
訪問回数	900	973	913	987	932	883	903	923	844	823	842	933	10,856

資料8 訪問入浴事業

介護度別 人数・回数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	利用人数													
	利用回数													
要介護2	利用人数													
	利用回数													
要介護3	利用人数													
	利用回数													
要介護4	利用人数			1										1
	利用回数			2										2
要介護5	利用人数	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	21
	利用回数	10	3	1	3	8	10	11	13	11	8	10	10	98
総合計 (人数/回)	利用人数	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	22
	利用回数	10	3	3	3	8	10	11	13	11	8	10	10	100

資料9 通所介護事業、介護予防・生活支援サービス事業

介護度別人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援1	21	11	15	18	13	10	8	6	6	11	8	8	135
要支援2	77	91	81	91	76	83	82	65	59	59	61	57	882
要介護1	125	125	105	134	113	122	146	129	134	118	121	134	1,506
要介護2	177	190	147	177	168	151	162	151	133	139	153	146	1,894
要介護3	138	147	133	124	108	110	115	117	116	90	77	89	1,364
要介護4	35	36	34	44	43	46	47	33	40	43	37	36	474
要介護5	16	19	14	19	16	5	8	8	13	12	29	37	196
利用人数計	589	619	529	607	537	527	568	509	501	472	486	507	6,451
平均利用人数	26.8	26.9	26.5	26.4	24.4	25.1	24.7	24.2	23.9	23.6	24.3	23.0	25.0
稼働日数	22	23	20	23	22	21	23	21	21	20	20	22	258

資料10 介護老人保健施設事業

①老人保健施設事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
京丹後市	1,884	2,008	2,004	2,050	1,921	1,917	1,889	1,812	2,141	2,177	1,900	2,063	23,766
与謝野町	193	200	197	206	205	175	154	131	215	227	232	228	2,363
宮津市	446	370	285	323	383	355	376	366	335	310	293	337	4,179
その他	154	138	135	124	130	145	106	195	170	165	174	186	1,822
計	2,677	2,716	2,621	2,703	2,639	2,592	2,525	2,504	2,861	2,879	2,599	2,814	32,130

②短期入所療養介護事業/介護予防短期入所療養介護事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
京丹後市	204	199	239	239	217	247	360	296	182	157	160	174	2,674
与謝野町	0	0	0	0	9	9	10	16	6	0	0	0	50
宮津市	0	0	9	0	6	0	9	26	0	3	12	0	65
その他	0	8	0	0	0	0	0	5	3	0	3	0	19
計	204	207	248	239	232	256	379	343	191	160	175	174	2,808

③通所リハビリテーション事業/介護予防通所リハビリテーション事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	22	23	20	23	22	21	23	21	20	20	20	22	257
京丹後市	721	743	645	727	674	660	723	637	594	588	588	658	7,958
他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	721	743	645	727	674	660	723	637	594	588	588	658	7,958

④居宅介護支援事業 介護給付・予防給付ケアプラン及び介護予防ケアマネジメント

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	66	66	63	59	60	61	63	62	59	59	59	58	735
予防給付	8	8	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	109
介護予防	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	45
計	78	77	76	72	73	74	76	75	72	73	72	71	889

資料 1 1 健やか生きがい教室事業

①大宮会場

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用人数	187	179	183	208	179	177	204	196	190	182	185	210	2,280
実施日数	20	19	20	22	20	19	21	20	20	19	18	21	239

②丹後会場

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用人数	35	38	33	49	26	34	45	35	35	34	36	35	435
実施日数	4	4	4	5	3	4	5	4	4	4	4	4	49

③久美浜会場

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用人数	51	50	52	49	35	52	63	47	50	46	46	40	581
実施日数	4	4	4	4	3	4	5	4	4	4	4	4	48